

中心市街地活性化基本計画（黒崎地区）の最終フォローアップについて

1 計画概要

■基本テーマ

『クロスロード黒崎 人が集い、暮らし、交流する、賑わいあふれる副都心』

■活性化の目標

目 標	指 標
① 来街者で賑わうまち (集客と回遊性の強化)	中心市街地における歩行者通行量
② 住みたい・住み続けたいまち (定住人口の増進)	中心市街地内の居住人口
③ 経済活力のあるまち (商業の活性化)	中心市街地の小売業年間商品販売額
	中心商店街ゾーンの空き店舗率

■計画期間：平成 20 年 7 月から平成 26 年 3 月まで（5 年 9 ヶ月）

■区域面積：約 70ha

■事業数：60 事業（平成 26 年 3 月末時点）

2 進捗・完了状況

総事業数 60 のうち 56 事業は計画期間内に着手し、全体の 9 割以上で具体的な取組が進められており、概ね順調に進捗・完了している。

（平成 26 年 3 月末時点）

総事業数		60 (100%)
完了		34 (57%)
実施中	実施中・着工済み	20 (33%)
	準備・計画段階等 一部着手中	2 (3%)
計		56 (93%)
未着手		4 (7%)

（主要事業）

- ・コムシティ再生
- ・文化・交流拠点地区整備（ホール、図書館、広場等）
- ・チャレンジショップ「クロカフェ」運営
- ・黒崎駅前線（ふれあい通り、岸の浦工区）整備
- ・黒崎駅前ペDESTリアンデッキ整備
- ・子どもの館リニューアル事業

3 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

- 基本計画に基づき、ハード・ソフトの両面から、官民一体となり各種事業を実施した結果、「文化・交流拠点地区の整備」、「コムシティの再生」、及び「ふれあい通り」等、賑わいの核となる施設の完成や道路・公園の整備により、居住環境や利便性が向上した。
- 特に、「文化・交流拠点地区の整備」により、新たなイメージが形成され、まちの魅力向上に繋がっている他、コムシティが再生し、多様な人々の集客・回遊の拠点として、賑わいづくりに貢献している。
- 更に、シニアマンションや共同住宅の供給及び生活利便施設の立地等により、街なか居住の促進が図られた。

4 活性化の状況

(1) 中心市街地活性化協議会の意見 . . . 若干の活性化が図られた

- 「主要な都市施設が整うとともに地域主体のイベントやコミュニティづくりの活動が始まる等、徐々にではあるが取組の効果が出始めており、基本計画は一定の成果があった。」

(2) 市民アンケートの結果 . . . 若干の活性化が図られた

- 設問 まちづくり全般について「以前より活性化した、魅力が増したか」
肯定的な意見 . . . 約5割、 否定的な意見 . . . 約2割

(3) 市の総合的な評価 . . . 若干の活性化が図られた

- まちの機能を高める公共インフラ整備や生活利便施設の立地等により、居住環境や利便性が向上し、まち全体の魅力や快適性が向上した。
- 「中心市街地活性化協議会の意見」や「市民アンケートの結果」を含め総合的に勘案すると、中心市街地の活性化には一定の効果があつた。

5 今後の取組

- 新たな集客拠点や都市基盤施設等を活用し、回遊性の向上を図る等、ソフト事業に重点を移しつつ、地元のまちづくりや商業活動を支援する等して活性化の取組を継続させていく。
- 商業の活性化については、引続き地元事業者等と密にコミュニケーションを取りながら、官民一体となって活性化に取り組む。また、今後、必要となる公共インフラの着実な進捗を図るとともに、民間開発の支援を行っていく。

(参考) 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
来街者で賑わうまち (集客と回遊性の強化)	中心市街地における歩行者通行量	20,164人/日 (H19)	27,000人 (H25)	16,204人/日	H25.10	C
		参考データ		19,433人/日	H26.5	
住みたい・住み続けたいまち (定住人口の増進)	中心市街地内の居住人口	5,689人 (H19)	6,300人 (H25)	6,416人	H25.9	A
経済活力のあるまち (商業の活性化)	中心市街地の小売業年間商品販売額	43,500百万円 (H19推計値)	48,700百万円 (H25)	33,386百万円 (推計値)	H26.4	C
		40,407百万円 (H19実測値)				
	中心商店街ゾーンの空き店舗率	21% (H19)	16% (H25)	20.9%	H25.9	B
		参考データ		19.8%	H26.3	

注) 達成状況欄

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

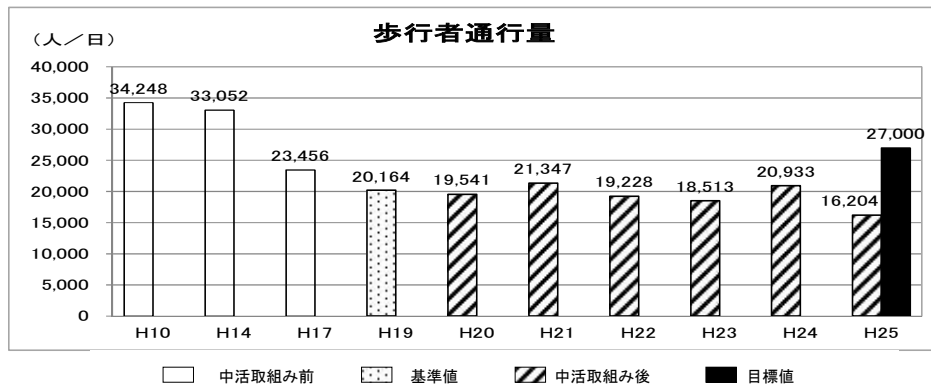
B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

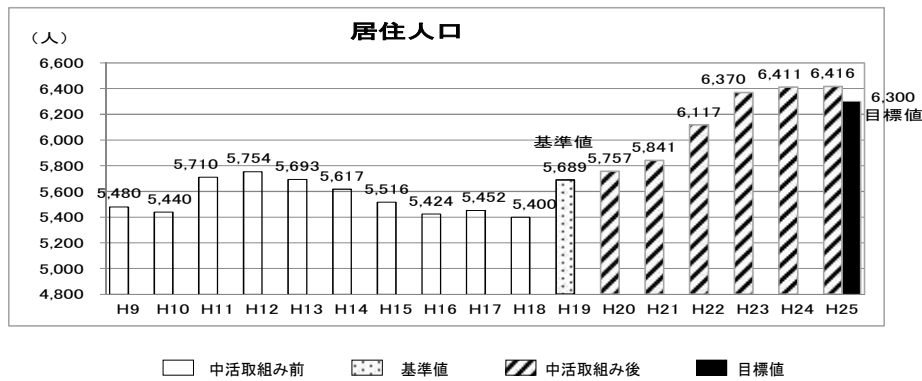
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

○ 目標指標1 「中心市街地における歩行者通行量」



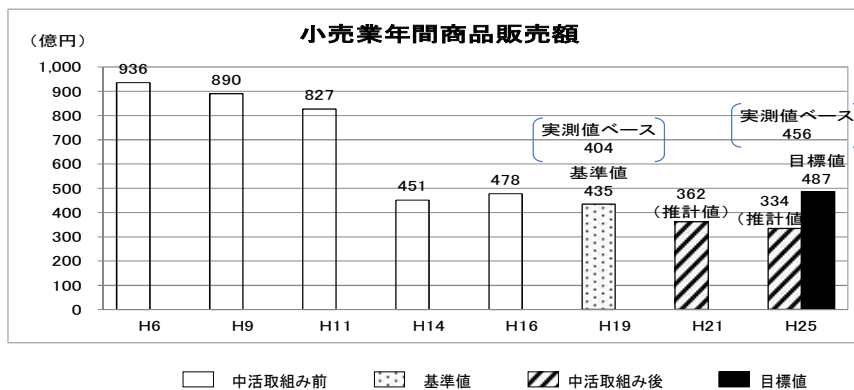
中活取組前の大幅な減少傾向から、減少幅が縮小した。

○ 目標指標2 「中心市街地内の居住人口」



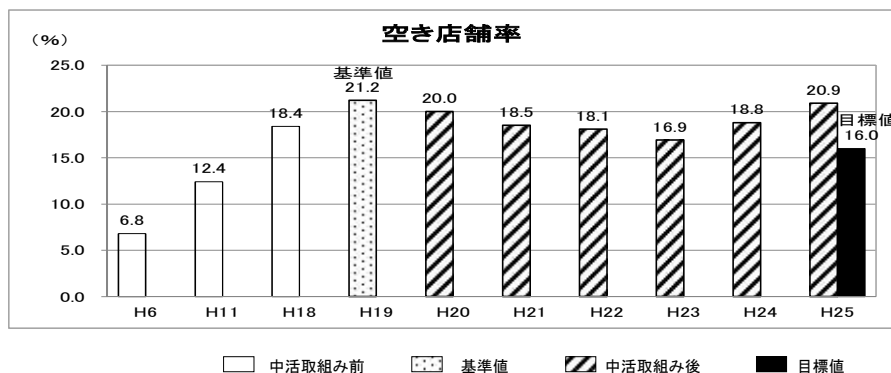
中活取組前の横ばい状態から、増加傾向へと変化している。H23に目標数値を達成し、増加傾向が続いている。

○ 目標指標3 「中心市街地の小売業年間商品販売額」



中活取組後も減少傾向が続いている。

○ 目標指標4 「中心商店街ゾーンの空き店舗率」



中活取組後は、空き店舗率が改善傾向にあったが、H24以降後退傾向となった。